

## 内発的發展と湯布院

写真は数年前に大分県の由布院に行ったときに撮ったものである。最近またレポートをよく書くようになったのは、前に撮った写真を活用したいためだ。写真をスキャナーで取り込み、それをトリミング(最近になって覚えたものだが)などの編集をして、掲載できるようになった。写真のシャレた湯布院駅や駅から見える由布岳がじつに印象的である。

由布院と言えば、「生活型観光地」や「保養温泉地」、さらには内発的發展のモデルとして注目されてきた。由布院が今に至るまでには、キーパーソンといえる多くの人の地道な活動があった。昭和 40 年代後半から本格的に始まった取り組みは、内発型發展の歩みをとらえる上でも示唆に富む。由布院のまちづくりを牽引してきたのは、当時の若い旅館経営者たちであった。

先日の「地域政策論」の講義で由布院を話題にした。リゾート開発など地域開発や公共事業の「影」を中心に話してきたが、すこしは明るい事例から展望を示そうと考えて、長野県川上村や湯布院を取り上げてみた。ちょうど昨年 11 月に放映された NHK のプロジェクト X で「湯布院・癒しの里の百年戦争」というのがあった。「生活型観光地」づくりの前史にあたるどころをビデオで見せて、湯布院の歩みを駆け足で話した。

学生たちの感想は、それまで聞いたリゾート開発などと比べて、生活密着型のまちづくりに新鮮さを感じたようだ。由布院という「観光地」に興味を抱いた学生も多かった。講義の関係から途中でビデオをとめたことに「注文」もつける学生もいた。

さて内発的發展のモデルといわれる湯布院にも、いくつかの課題も出ている。人口 1 万 2 千の町に年間 380 万人の観光客が訪れることによる生活への「影響」などだ。写真にもあるように、高速道路が整備されて観光バスやマイカーで訪れる人が増えている。「観光公害」、さらには「観光地化」して湯布院らしさが失われるといった状況もみられる。駆け足で歩いていても、こうした問題を実感したものだ。



(7月5日 記)